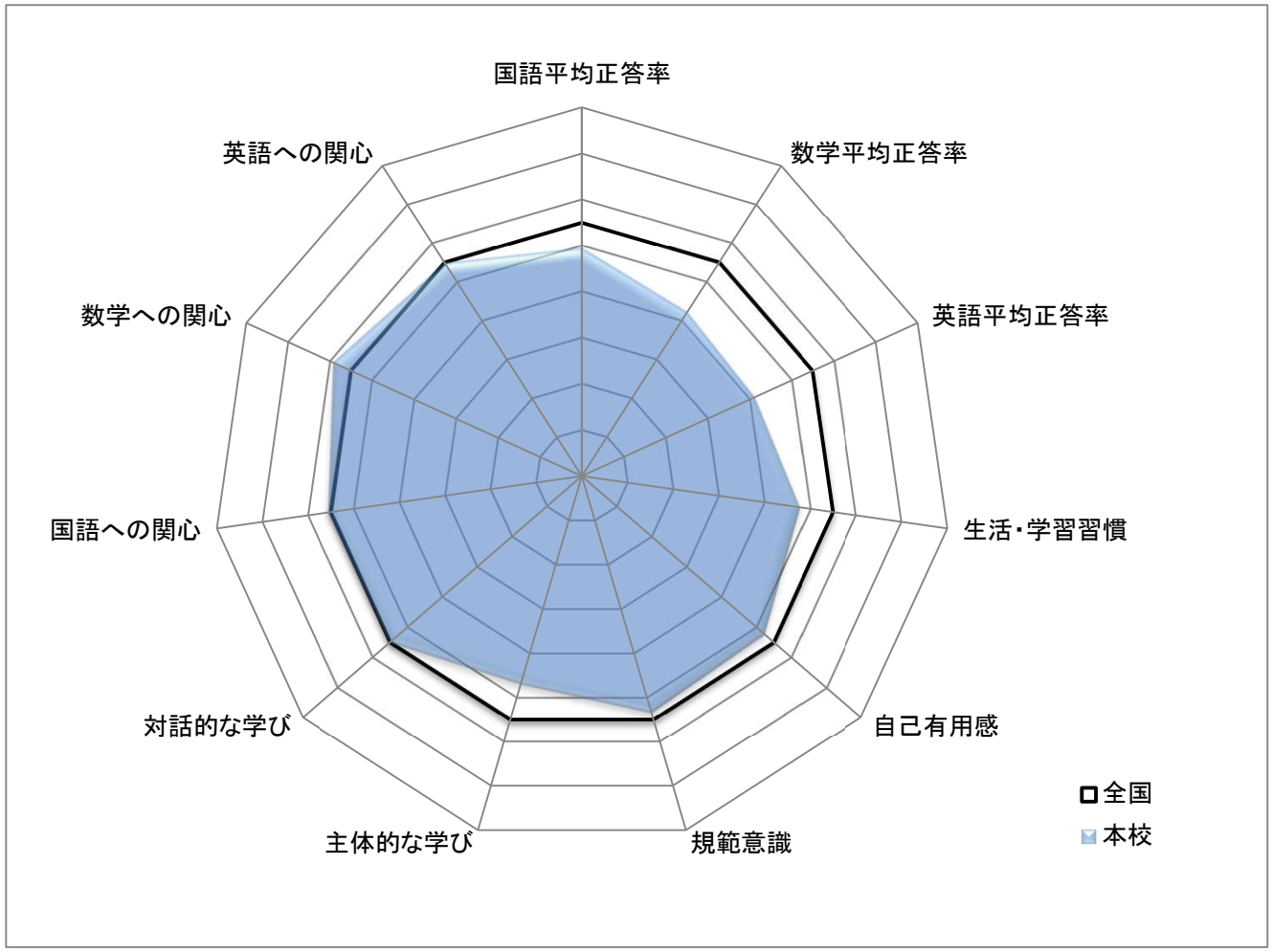
令和５年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（中学校）

江戸川区立南葛西第二中学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

各教科の平均正答率は、国平均を7～13ポイント下回っており、正答数を「四分位」を用いてみた場合、本校のＣ層＋Ｄ層、なかでもＤ層にあたる生徒の割合が国平均よりも顕著に多い実態である。
しかしながら、各教科に関する生徒の関心を見る項目にあっては、国平均をわずかながら上回る状況もみられる。
国平均を下回る生活・学習習慣ならびに主体的な学びについても組織的な対応が必要であると受け止める。

《授業改善のポイント》

以下の取組の充実を図り、各教科への前向きな姿勢を生かして正答率の向上につなげる。
①予習や復習を含む、自分で計画を立てて勉強に取り組む機会の設定。
②自分で課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する等の学習活動。
また、記述式問題の正答率を高め、無回答率の漸減をはかるため、以下の点に取り組む。
③自分の考えや意見を記述するとともに、発表する機会を計画的に設ける。
④演習問題や発展的な問題や課題に取り組む機会を設け、自学自習につなげる。

《チャートの特徴》

○平均正答率については、各教科とも全国平均・都平均・区平均を下回っている。
○生徒の各教科への関心については、国平均を上回る項目もあるなど、どの教科においても国平均とほぼ同水準にある。
○「生活・学習習慣」「主体的な学び」について国平均を下回っている。
○各教科への関心と正答率に有意に乖離があることを踏まえると、生徒の学びに対する意欲や本校での学習への満足感があることがわかる。

《家庭・地域への働きかけ》

「生活・学習習慣ならびに主体的な学び」の定着・向上には、家庭学習の習慣づけが欠かせないことを踏まえ、「家庭学習を促す課題の提示」「自学自習を習慣化する働きかけ」「読書の推奨」を継続的に呼びかけていく。